

1 最終候補

- (1) 区の花 「ひまわり」
「ビオラ」
- (2) 区の木 ^{いちよう}「銀杏」
^{ちようじゅうろうなし}「長十郎梨」

2 選考理由

- (1) 区の花
「ひまわり」
- ・明るく元気なイメージが成長著しい川崎区に合っている
 - ・学校教材として使われるなど子ども達にも馴染み深い
 - ・今年度運転が開始された大規模太陽光発電所等の太陽エネルギーとの関連付けが可能
 - ・太陽に向かって大きく育つ姿に、東日本大震災の被災地復興を願う気持ちを込めたい
- 「ビオラ」
- ・花色が豊富で、開花時期が冬から春にかけてと長期間楽しめる
 - ・プランターや鉢でも育てられるため、ベランダ緑化等に適している
 - ・花苗の入手に関しても、パンジーとビオラの一大生産地である中原区との連携が図りやすい
 - ・「ビオラ」という響きが楽器の「ビオラ」と同じであることから、「音楽のまちかわさき」との関連付けが可能
- (2) 区の木
^{いちよう}「銀杏」
- ・区内の街路樹等として多く植樹されており、特に市役所通りの銀杏並木は年間を通して成長過程を楽しませてくれる
 - ・稲毛神社の銀杏が“まちの樹50選”に指定されるなど、区民の方にとっても身近な木として親しまれている
 - ・銀杏を題材とした短歌（歌人：与謝野晶子）が学校教材としても使われており、情緒的・文学的な啓発にもつながる
- ^{ちようじゅうろうなし}「長十郎梨」
- ・川崎区大師河原が発祥の地と伝えられており、イベントの実施や学校教材として活用されるなど認知度が高く、地域振興に期待が持てる
 - ・明治中期頃の川崎の情景として長十郎梨を題材に俳句（俳人：正岡子規）が詠まれ、区内にその句碑が建立されていることから、情緒的・文学的な啓発にもつながる

3 選考の経緯

(1) 公募結果の分析について

花・木ともに公募結果を尊重し、第1位の「ひまわり」と「銀杏^{いちょう}」を選考しました。第2位の「ビオラ」と「長十郎梨^{ちやうじゅうろうなし}」については、未来を担う10代の若者からの支持を多く得ているという点を重視し選考しました。

(2) 選考数及び活用について

目的である地域緑化、区のイメージアップを考え、それぞれ2候補ずつの選考としました。

区の花については、年間を通して長期間栽培ができることを考慮し、開花時期が夏から秋の「ひまわり」、冬から春にかけての「ビオラ」を選考しました。

区の木については、身近に植樹され親しまれている「銀杏^{いちょう}」のほか、川崎区にゆかりが深い「長十郎梨^{ちやうじゅうろうなし}」を選ぶことで、PR効果が高まると考えました。

(3) 表記について

「ひまわり」はやわらかい印象を与える平仮名、「ビオラ」はイメージしやすい片仮名、「銀杏^{いちょう}」、「長十郎梨^{ちやうじゅうろうなし}」は川崎区の歴史性・固有性を強く意図するということや、日本語の多様性という観点から「漢字」表記とし、更に多文化共生という川崎区の特徴を踏まえ、分かりやすいように平仮名のルビ付きが望ましいと考えました。

4 審議経過

(1) 第1回選考委員会（平成23年7月11日）

- (主な議題)
- ・委員長・副委員長の選出
 - ・川崎区「区の花」「区の木」の制定について
 - ・川崎区「区の花」「区の木」の選考について

(2) 第2回選考委員会（8月5日）

- (主な議題)
- ・川崎区「区の花」「区の木」の選考について
 - ・区民意見の抽出方法について

(3) 第3回選考委員会（8月31日）

- (主な議題)
- ・川崎区「区の花」「区の木」の選考について
 - ・区民意見の抽出方法について

(4) 第4回選考委員会（12月2日）

- (主な議題)
- ・川崎区「区の花」「区の木」最終候補の選考について